

注射薬の投与速度変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、注射薬の投与速度に関する指示を確認し、変更を提案することで、安全な薬物療法に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対してリツキシマブ BS 点滴静注を
初回投与予定の入院患者

カルテより、投与速度に関して以下の指示が出されていた
「3 時間で投与、30 分は 100mg/時、その後 200mg/時」



E さん

明日から E さんにリツキシマブが投与開始となる。
投与量や支持療法、検査値などは問題なさそうだが、投与速度の
指示に問題がありそうだ。

明日から E さんに開始となるリツキシマブの投与速度について確認
があります。投与速度の指示が、2 回目以降（初回投与時に発現
した副作用が軽微であった場合）の投与速度になっております。

投与速度に関連した副作用症状（infusion reaction など）が発現
することがあり、初回投与では、最初の 30 分は 50mg/時で開始し、
その後速度を上げる場合は、30 分毎に 50mg/時ずつ（最大 400mg
/時）上げる必要があります。

確認ありがとうございます。投与速度の指示を出し直しておきます。
投与速度を上げる場合、副作用の発現がないか注意します。
その他は特に問題ないですか。

ありがとうございます。速度以外は問題ありませんでした。



医師



薬剤師

その後、投与速度の指示が提案通りに変更となった。
投与中 infusion reaction などの副作用症状なく経過し、投与終了した。
注射薬の投与速度に関する指示を確認し、変更を提案することで安全な薬物療法に貢献できた。